



花を愛した肥後人……

日本人は、古来花を愛する国民として自他共に許してきたし、特に肥後に育った人々の血には花に対する関心が強く、肥後しようぶ、肥後菊、肥後椿など、いろ／＼優れた花を世界の園芸界に出してきた。

私たちの祖先は、根気と努力をもってこれらの銘花を作り出してきたが、現在は一部の人を除きほとんど改良が行われずたゞ品種の保存が行われている現状である。

花の栽培に適した気候風土にめぐまれた私たちが、特産品としての花卉産業を打ち立てることは、祖先の残した遺産に

対する大きな義務ではなからうか。

特産花卉を作れ……

つばきは海外でさわがれている花木は少いのに、生れ故郷である熊本では、盆栽又は庭木としてのみ扱われている。これは優れた園芸品としての認識がなされなかつたことや大量生産によって価格を下げ、産業化することが考えられなかつたためであらう。

つばきや、山茶花は挿木や接木も簡単にできるし花もちのよき、花の気品からいつても銘花中の名品であり、世界の花卉園芸に君臨する価値は十分考えられる花木である。

花ゆりは、キリスト教のイースター祭や、クリスマスに必要な花として戦前は日本から四千万球が海外に輸出され、文字どおり世界の市場を独占していたし、熊本からも、八十万球を輸出して日本ゆりの名声を博したものであった。しかし現在わずか一万球の輸出にとまづっている。

これは、最大のお得意先の米国で、同系のクワフトゆりが作出され、大栽培されたためと、植物病理に対する知識が不十分であったため輸出品としての生産ができないためである。

ゆりの他アマリ、ス等の球根類も、生産コストの面で欧米の追従をゆるさぬほど有利であるから一日も早く採種と販売体制を確立して戦前のはなばなし輸出

に復活したいものである。

又、県外に出荷される菊、カーネーション、菖蒲、カラーその他花木の枝物は国内需要が増加の方向をたどり、特に優良品種について需要が増加している。販路としても北九州の有利な市場があるの阿蘇郡その他の高冷地利用や、天草、宇土、芦北等暖地利用による時期はづれの花生産は、熊本の有利な産業となり得るだろう。

今こそ本県の花産産を確立するため、生産者と取扱団体が協力して、熊本県の特産花卉の計画生産を真剣に考えねばならないときである。

世界の園芸界は、日進月歩であり、今日の銘品は明日の銘品ではあり得ないほど次々と品種の改良が行われており、先進国において行われた品種改良には、巷間の園芸家たちの根気強い努力があらずかつて力があったことも注目すべきことである。なお又花は人に贈るものであり、花を売ることと賤しむ考えが、熊本の花産産の発達をさまたげているとも、一考を要することである。

人気を呼ぶ熊本カラー……

熊本市田迎附近におけるカラーの栽培は、他に例をみない独特の栽培法である南アメリカ原産のこの花は摂氏四度以下では栽培できない性質のものであるが、水前寺と同じ系統の水が地下から噴出し年中十四―十五度の湧水を利用して栽培されるカラーは花の少い冬から早春にかけて

て遠く関東、関西まで出荷されている。又この一帯は温室もの、キク、カーネーション、バラ、ストック、金魚草やフレームによるアマリリス、フリージャー、アイリス等の球根類の切花が盛んであり他の熊本市近郊におけるキク、ガーベラ等の草花や花木類の露地切花とあわせて集産産地の形をつくっている。

花を庶民のものとして……

世界の人の注意を引くほど発達した華道や仏花を飾る私たちの習慣が勢い花を家庭の中だけで楽しむものとし、花の一輪一輪の美しさだけが愛されてきたようである。

しかし、だんだんと花が人々の心をやわらげることにより健康への好ましい影響が考えられるようになり、花一ぱい運動が街にひろがっていることは誠に喜ばしいことである。

「日本人は家庭で庭を楽しむ、欧米人は生活のいこいを公園に求める」といわれ又「花壇の有無は文化都市のパロメータ―」ともいわれている。花壇は街のアクセサリーであり、訪れる人の心にはほほえみを添えるものである。

この秋は、国体が熊本で開催されるので肥後の銘花を全国に紹介する絶好のチャンスである。又花壇を作つて旅人の心を楽ませることも、花を愛してきた肥後人の一番美しい心の贈りものではなからうか。

(農産課)



★ ★

人気の花形となつたク熊本カラーの主産地
熊本市田迎町でみるカラー栽培のひとこま

(くわしくは次頁を)



↓ 花市場を経て街角の花屋さんの店先へ……



↓ このビニールハウスの列はカラーの花床



★ ✓ 花床から採取したカラーがひと所に集められる

↓ 清礎なカラーはいけ花材料のホープらしい

